

株式会社 免疫生物研究所

東証グロース 証券コード：4570



代表取締役社長 清藤 勉

2022年11月30日（水）



2023年3月期（第41期）

第2四半期連結決算

【連結業績】

(金額:千円)

	2022年3月期 第2四半期 (40期)	2023年3月期 第2四半期 (41期)	前期差
売上高	253,993	293,166	+39,172
営業利益	△136,520	△54,561	改善
経常利益 (うち持分法投資損失)	△188,170 (△57,000)	△129,668 (△90,000)	改善
親会社株主に帰 属する当期純利益	△199,333	△136,168	改善

【セグメント別 業績】

セグメント	売上高			営業損益		
	金額 (千円)	前年同月比		金額 (千円)	前年同月比	
		増減額 (千円)	増減率 (%)		増減額 (千円)	増減率 (%)
抗体関連事業	291,179	+47,117	+19.3	△5,910	+73,440	—
(内訳)						
診断試薬サービス	246,496	+44,888	+22.3	36,952	+61,411	—
検査サービス	30,370	+2,900	+10.6	△6,260	+18,879	—
TGカイクサービス	14,312	△670	△4.5	△36,602	△6,850	—
遺伝子組み換え カイク開発事業	—	—	—	△40,626	+11,989	—
化粧品関連事業	1,986	△7,945	△80.0	△8,024	△2,991	—

【抗体関連事業】 診断試薬サービス

第2四半期 累計
(売上高)

主力製品であるEIAキット・抗体・・・売上増

⇒海外販売活動においてeマーケティング(SNS等)

を活用した情報戦略の成果拡大

試薬受託サービス・・・前年並みで推移

動物用体外診断用医薬品・・・売上増

(営業損益)

開発費・・・前年並み

⇒売上高が増加したことやコロナ禍における事業活動の

最適化をはかり、諸経費を抑制したこともあり前年に

比べ大幅に改善

※なお、第3四半期以降の売上高につきましては、受託製品の販売や動物用体外診断用医薬品の売上並びに抗体関連の売上が増加することが予想されております。

【抗体関連事業】検査サービス

第2四半期 累計

(売上高)

血中リポタンパク質プロファイリングサービス

「LipoSEARCH」に関連する取引が停滞・・・売上減

※今後、合併による相乗効果を期待

臨床検査サービスの拡充・・・売上増

(営業損益)

合併効果により・・・経費減

営業活動が再開・・・経費増

【抗体関連事業】 TGカイコサービス

(売上高)

前年並みに推移

⇒研究開発に注力しているため、新たな営業活動を行っていない

【遺伝子組換えカイコ開発事業】

(研究開発)

コストを抑制しつつ、有用なタンパク質の開発や当該タンパク質の繭中産生量の改良における基礎研究に集中

注)限られた研究資金を有効的に使用

【化粧品関連事業】

(化粧品売上高)

国内展開・・・減少

⇒B to C→B to B(代理店)に切り替え

欧州展開・・・販売なし

⇒第4Q販売予定

中国展開・・・停滞

⇒越境ECの構築を行い、販売が6月下旬から
開始・・・反応は限定的

(化粧品原料売上高)

欧州展開が中心・・・増加

【連結貸借対照表の概要】

単位:百万円		2023年3月期 第2四半期連結			特記事項
		構成%	前年度末比 %		
流動資産	1,041	66.7	△7.8	【主要な資産の前期末差】 ・現預金 △102 ・売掛債権 △22 ・投資有価証券 △55	
(現預金)	(405)	(26.0)	(△20.1)		
固定資産	520	33.3	△9.6		
資産合計	1,561	100.0	△8.4		
流動負債	222	14.3	△2.4	【主要な負債の前期末差】 ・借入金 +2	
固定負債	106	6.8	△1.9		
(借入金 ※長短含)	(236)	(15.2)	(+1.3)		
負債合計	329	21.1	△2.2		
純資産合計	1,232	78.9	△10.0		
負債純資産合計	1,561	100.0	△8.4		

【連結キャッシュ・フロー】

単位:百万円	2023年3月期 第2四半期	主な要因
現金及び現金同等物の期末残高	340	前連結会計年度末と比べ 108百万円減少
営業活動による キャッシュ・フロー	△50	税金等調整前四半期純損失 △131百万円 売上債権の増減額(回収) 22百万円 たな卸資産の増減額(△増加額) △20百万円 持分法による投資損失 90百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	△63	関係会社貸付による支出 △55百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	+2	短期借入金の純増減額(△は減少) 5百万円 長期借入金の返済による支出 △2百万円

■ 今後の展開

※今後の展開につきましては、2022年5月30日公表の「事業計画及び成長可能性に関する説明」をご参照ください。

注意事項



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。